

CONTENTS

● NAMM関連記事	2・3
● 公益法人制度改革について・音楽配信部会活動報告	4
● AMEIは電子楽器内臓コンテンツについてこう考えます	5
● MIDI検定試験実施報告・ミュージックメディア入門改訂版発行のお知らせ	6・7
● AMEI会員名簿・第12回通常総会と懇親会開催のお知らせ	8

第11回NAMMビジネスツアー AMEI/MMA会議報告



2008NAMM SHOWは例年通り米カリフォルニア州アナハイム・コンベンションセンターで1月17日から20日まで開催されました。今年の入場者数は88,128人（前年比102%）、また出展社数も1,560社（前年比102%）と毎年増え続け、過去最高となりました。

MIDI規格委員会主催の第11回NAMMビジネスツアーもNAMM開催の日程に合わせ、1月16日に成田を発ち、22日に帰国というスケジュールで、10名の参加協力を得て実施されました。

今年の、MMA/AMEI合同会議には多くのMMAメンバーが参加しやすいよう、ショーが終わった翌日（1月21日）に開催され、AMEIから参加のMIDI規格委員会メンバーの帰国もツアーメンバーとは別の23日となりました。

NAMMビジネスツアー

1月16日14時30分、ANA006便で出発予定の9名（他1名は別便）は、成田国際空港第一ターミナルへ集合しました。ここで旅行会社より各自、搭乗券を手渡され、チェックインを済ませた後、5階のレストランにて、ツアー結団式を行いました。ツアーメンバーは、初めてお目にかかる方も多く、今回はじめてのNAMMデビューの方、毎年仕事で行かれています方、MMAとのミーティングが目的の方、などなど様々な目的のツアーメンバーによる自己紹介に始まり、広いNAMM会場での出展商品や出演デモンストレータの情報について、毎晩ホテルでミーティングを行うことや、ディズニーランドが売り物のアナハイムにあって近隣のショッピングモールまでの交通手段などの情報など、少しでも有意義なツアーとなるよう1時間に渡りミーティングを行い、最後に集合写真を撮って締めくくりました。その後、各自出国の手続きを行い、それぞれが機中の人となりました。日付変更線を越え、日時は戻って、朝10時、一行は眩しい太陽の照りつけるロスアンゼルスへと到着しました。旅行会社で手配されたバスに乗り込み、ギターセンター等の市内見物と途中ファーマーズマーケットに立寄り昼食、その後、最初の訪問先であるMI（Musicians Institute）へ立ち寄りました。この専門学校は、観光客で一杯のハリウッド・コダック・シアターと同一ブロックにあり、1977年ギター専攻科に始まり、毎年のようにベース、パーカッション、ボーカル、キーボード、レコーディング、ギター制作、音楽ビジネスなどの学科を増やし、2005年には映画と音楽ビデオ学科が新設されました。MI訪問の後、バスは一路本日から滞在するホテルへと向かいました。この頃になると、長時間のフライトと時差による疲れから、日系人ガイドによる説明も、快い子守唄となり、皆、静かな寝息を立てていました。



ビジネスツアー結団式（成田国際空港にて）



専用バスでホテルへ向かう車中にて



MI（Musicians Institute）校内



V-LINKコンファレンスにて田中社長

V-LINKコンファレンス

1月18日

NAMM2日目の1月18日、NAMM会場ローランドブースにおいて、同社が提唱する音楽と映像を同期させるV-LINKコンファレンスが開催され、MMA及びAMEIメンバー含め多数が参加されていました。この開催のニュースはツアー出発前に同社よりAMEI事務局およびMMAへアナウンスがあり、AMEI会員にも広く告知しました。

当日は、V-LINKを使ったデモを挟み、同社田中英一社長より「MIDIにより電子楽器が拡大したようにMIDIを応用したV-LINKもローランドだけではなく、業界で広く使っていただきたい」、また創業者の梯郁太郎特別顧問からは、MIDI規格が誕生した1983年当時を振り返りながら、「MIDIが整った現在、演奏する感性で同時に映像も表現できるV-LINKをAMEI及びMMAの協力を得て、MIDI規格の一部として取り扱ってほしい」と呼びかけがありました。

AMEI/MMAオフィシャルミーティング

1月18日

1月18日（金）午後2時から、NAMMメイン会場前にあるマリオットホテルにてAMEI 5名とMMA 8名によるオフィシャルミーティングを開催しました。

MMAの初参加メンバーも加わったので、最初に自己紹介からスタートしました。

この後、次のようなテーマで議事が進行しました。

- ・HD-MIDIの名称について 以前よりAMEIからMIDI 1.0との互換性など考慮し、新しい規格の名称に「MIDI」という言葉を使うことは好ましくないと提案してきました。

今回、MMA側から当面は、新規格の名称をHD Protocolに、またWGの名称もHD Working Groupとするとの回答があり、AMEIからの提案を理解していただきました。また、1月20日開催予定のWGにおいて、名称問題についてMMA内メンバーでも議論するとの追加提案を頂きました。

- ・MMI (Mobile Musical Interface : AMEI News Vol.34にて紹介) についてAMEIから報告されました。
- ・RP等ドキュメントの著作権についてAMEIから提案されRP等になったドキュメントは、MMAで手を加え最終合意となるため、AMEI・MMA両者の著作物とすることとしました。
- ・現在議論中の案件一つ一つについて、状況の報告が行われました。



MMA総会

1月20日

1月20日(日)午前9時からMMA総会が約50名の参加で開催され、AMEIメンバーもオブザーバー参加しました。

総会開始前、MMAの用意した朝食をいただきながら、久々にお会いするMMAメンバーたちと歓談、あちこちでこのような風景が見られました。

総会は、最初にTom White会長の挨拶と、一年間の報告に始まり、後半は、技術的な審議・報告・新しい提案と進行了。この中で、Tom会長は、AMEI/MMAオフィシャルミーティングでのHD-MIDI名称にも触れ、ワーキングの名称も「HD-Working」として、まずは技術的内容を優先させることが報告されました。



後半の技術的な新しい提案として、NAMM2日目には開催されたローランドからのV-LINKについてMMAメンバーのMike Kent氏(Roland US)から概要の説明がありました。

HD-WG

1月20日

総会終了後の午後1時30分から名称変更したHD-WGが開催されました。

出席者はMMA WGメンバー12名、WGメンバーでない者2名、AMEIから4名の出席です。議題としては、技術的な内容は、明日(1月21日)に話し合うこととし、



基本的な質問や、ビジネス関連の議論となりました。

新規格の名称についても議論され、活発な意見が交換されました。

AMEI/MMA Joint Meeting

1月21日

2008NAMMも昨日で終了し、AMEIのツアー参加者も本日の11時35分発ANA005便で帰国します。MIDI規格委員会メンバーは今日が最後の会議となるため、朝、帰国される皆さんを見送り、本日宿泊するホテルへと移動し、荷物を預けて会議が開催されるヒルトンホテルへと向かいました。

今回のHDプロトコルに関する会議は朝9時から始まり、午前中はこれからのスケジュール午後は技術的内容に関する議論となりました。

技術的内容については、今後もさらに議論を続ける必要があります、今後の合同会議について、次回は東京で開催することに決定しました。



AMEI NAMM ツアーに参加して

(株式会社第一興商 商品企画開発部 筒井章貴氏にレポートして頂きました)

今回初めてNAMM2008を視察する機会を得た。仕事ではカラオケ用スピーカーやマイク、アンプといった音響機器の開発を担当していることもあり、PA関連のブースに目を奪われがちではあったが、普段はまず積極的に見て回ることの無いアコースティック楽器や、日進月歩で進化するシンセサイザー、DAW等の機器に実際に触れることが出来た事はとても良い刺激となり、大きな収穫だったと思う。

「楽器」だからこそ、単に展示品の外観や、カタログスペックだけで良し悪しは判断できない。手にした触感から操作性、演奏者が奏でる音まで含めて、その価値が問われるという評価プロセスは、至極当たり前であることなのに、とても新鮮に感じられた。

国内の展示会に於いては、新商品の発表の有無に一喜一憂し、商品のデモ見学もそこそこにカタログを収集してまわるといった普段の自身の行動にも、今回大いに疑問をもった。

ここ、NAMMを訪れる者の多くは自分で楽器を手にとって演奏する。職人や技術者とディスカッションし、或いはミュージシャンのデモに歓声をあげ「お祭り騒ぎ」を楽しんでいる。飛び入りのパフォーマンスにはたちまち人垣ができ、その傍らでは一心不乱に展示機で演奏する子供の姿。私はこんなに笑顔の多い展示会をかつて経験したことが無い。

歌って楽しい、演奏して楽しい、ひいてはその行為で周囲から注目を浴びてうれしい。この笑顔こそが、音楽産業に携わる我々の原点であるのだと感じた。

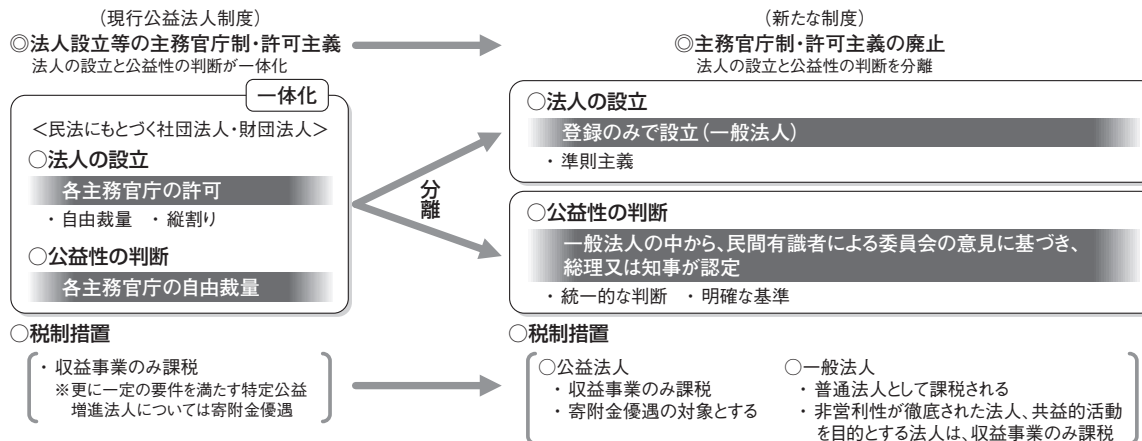
また、来場者層が分類不能な事も「NAMMならでは」であった。老若男女、人種もファッションも、おそらく宗教も全く異なる人々が、音楽というひとつのキーワードだけで集い、つながっている光景を目の当たりにし、改めてカラオケの将来についても想いを巡らせる契機となった。

公益法人がかわります

下記のスケジュールに従いAMEIでも今後対応を検討してまいります。

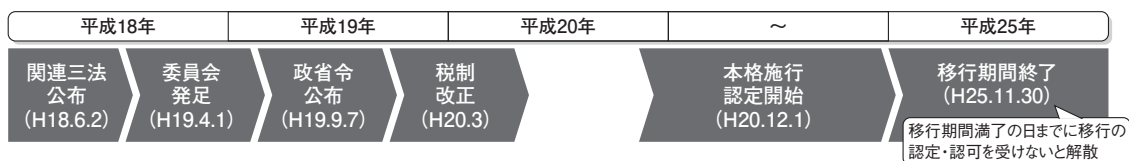
公益法人制度改革のポイント

- 「民間が担う公益」を我が国社会・経済システムの中で積極的に位置付け、その活動を促進
- 公益法人について指摘される諸問題に適切に対処する観点から、制度を抜本的に見直す



公益法人制度改革のスケジュール(予定)

- 平成18年6月 公益法人制度改革関連三法公布
- 平成19年4月 「公益認定等委員会」発足(認定法の一部施行)
- 平成19年9月 関係政省令の制定
- 平成20年 3月 税制改正
- 平成20年12月 関連三法の本格施行
- 平成25年11月 「公益認定等委員会」における認定の開始
- 平成25年11月 新たな制度への移行期間終了



新制度における一般社団・財団法人と公益社団・財団法人の関係



著作権・ソフトウェア委員会

音楽配信部会活動報告

音楽配信部会は、NMRCを通じての活動を精力的に行っていますが、前号のAMEI NEWS vol 34 (2007年11月30日発行)以降の活動について以下ご報告をいたします。

JASRACとの「音楽以外の著作物を利用する事を主たる目的として配信する場合の商用配信規程」の見直しにつきましては、関連団体とのWGを通じての意見交換・協議を継続中ですが、NTTドコモの「Music&Videoチャンネル」及びKDDIの「LISMO Channel」等のプラットフォームを利用した、再生可能期間7日までの携帯電話向け有期限動画ダウンロード配信サービスにおける音楽ビデオクリップの取り扱いについては、JASRACと合意にいたしました。

又、携帯電話におけるサブスクリプションの下支えの読み替えにつきましては、3月26日に合意に向けた協議をJAS-

RACと行い、JASRACの回答を待っている状況となっています。(4月10日現在)

「NMRC拡大実務WG」は、原盤報告フォーマットの標準化に向け(社)音楽出版社協会(MPA)と協議を継続していましたが、昨年末に大筋について合意に達する事が出来ました。今後、MPAとNMRCは4つのスタディグループ(①フォーマット詳細検討グループ ②フォーマット普及グループ ③メタデータ標準化検討グループ ④契約書フォーム検討グループ)を構成し両者の利便性向上に向けて協議を継続していく事になっています。

2006年以降のストリーム按分に関する管理事業者との協議もスタートしています。データ提供等のご協力を是非宜しくお願いいたします。

電子楽器内蔵コンテンツに関する AMEIの見解を発表

昨今のデジタル技術やインターネットの発達、社会に多くの恩恵とさまざまな影響をもたらしました。電子楽器においても、もはやこれらの技術進歩なくしては語れないほど数多くの恩恵を受けているのは周知のことと思います。電子楽器の多くはサンプリング技術により音をデジタル処理して利用していますし、演奏を手助けするリズムやスタイルデータも演奏をデジタル化し内蔵（記録）しています。また、最近ではインターネットに直接つながり、さまざまなデータをダウンロードできる電子楽器も出始めてきています。

その一方で、劣化なく容易に複製したり配布できてしまうことを悪用し、電子楽器に内蔵されているこれらコンテンツの不正コピーがインターネットを介して配信されたり、不正に複製したコンテンツを組み込んだ電子楽器が製造販売されるといった新たな問題を生むことになりました。

上記の問題を背景に、著作権・ソフト委員会ソフト規格部会では平成16年10月に「電子楽器内蔵コンテンツ等の保護に関するWG（GCP-WG）」を設置し、具体的な検討を開始しました。

WG活動は約3年半に亘る30回を上回るミーティングを実施、加えて弁護士及び法科大学院の教授にも参加してもらい、実際の電子楽器の音出しも交えての勉強会を実施しながらさまざまな検討をしてきました。

その活動を通じてまとめたものが、以下に紹介するAMEI見解「AMEIは電子楽器内蔵コンテンツについてこう考えます。」です。本見解書はAMEIのホームページに掲載することにより、不正な使用の抑制に役立つことを期待しています。

また、関係省庁及び（社）日本レコード協会、（社）音楽出版社協会、（社）コンピュータソフトウェア著作権協会、日本シンセサイザープログラマー協会等の関連団体にもご説明し、ご理解とご協力を要請しています。

今後の活動としては、外国語訳の検討、ユーザーへの対応（Q&A、サポート文言集の作成）等を予定しています。

会員の皆様のご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

AMEIは電子楽器内蔵コンテンツについてこう考えます。

電子楽器^{※1)}には、音楽表現のための音色波形や演奏情報など、さまざまなコンテンツが内蔵されています。

本来、電子楽器は、ユーザーが、自身による楽器の演奏やその演奏の録音に自由に使用できるものであり、内蔵コンテンツもこのような「楽器本来の使用」を支援することを意図し製作されています。

したがって、楽器を正当に入手したユーザーが「楽器本来の使用」をする場合、これら内蔵コンテンツの使用は何ら制限されるものではありません。

しかし、昨今のデジタル技術やインターネットの普及は、電子楽器にも利便性向上という大きな付加価値をもたらした一方で、「楽器本来の使用」から外れ、内蔵コンテンツの不正な複製や頒布を誘発するという新たな問題を生むことになりました。

電子楽器内蔵コンテンツのこれら不正使用は、電子楽器を製作するものに不利益を及ぼすだけでなく、音楽文化の発展にも多大な弊害をもたらします。

AMEIは、これら電子楽器内蔵コンテンツの不正使用をなくし、正しく電子楽器を使っていただくため、以下のように提言します。

次の使用法は電子楽器内蔵コンテンツ^{※2)}の不正使用となります。

電子楽器内蔵コンテンツを、そのまま、もしくは酷似した形態で取り出し、

1. 別の記録媒体に固定し、その記録媒体またはその記録媒体を組み込んだ他の電子機器（電子楽器等）を製造・販売すること。
2. コンピュータネットワークを通じて公開または送信すること。

電子楽器は、ユーザーが、自身による楽器の演奏やその演奏の録音に自由に使用できるものですが、「楽器本来の使用」を外れ、無断で複製やネットワーク上での配信（送信可能化）などを行うと著作権法等の違反になる場合があります。

音楽CDや市販のMIDIデータ等が著作権法で保護されていることは周知のことですが、電子楽器内蔵コンテンツの法的保護への認識についてはまだ浸透していないのが実情です。AMEIは電子楽器内蔵コンテンツの知的財産権等について今後も調査研究を進めてまいります。

【語句の意味】 ※1) 電子楽器

ここでいう電子楽器にはハードウェアで構成されるものの他に、PC上で音楽を制作する各種ソフトウェア製品（ソフトウェア・シンセサイザー、ミュージックシーケンサー・ソフトウェアなど）も含む。

※2) ここでいう電子楽器内蔵コンテンツとは次のものをいいます。

①音色波形データ

自然楽器等の音色を再生するためのサンプリング波形データのこと。

②スタイルデータ

自動伴奏のための素材データのこと。

リズム、ベース、バックギンなどの音色や伴奏パターンをプリセットしたものなど。

③音楽制作、演奏支援のための素材データ

専らソフトシンセなどに組み込まれているフレーズデータ、オーディオループなど。

④内蔵デモ曲

MIDI検定試験実施結果報告

主催：社団法人音楽電子事業協会 協力：日本シンセサイザー・プログラマー協会

平成19年12月2日（日）全国58会場にて「第10回MIDI検定3級」「第9回MIDI検定2級1次（筆記）」を実施しました。また同日、同一試験問題にて中華人民共和国においても「第4回MIDI検定試験3級」を実施しました。

また、MIDI検定2級2次（実技）試験は、平成20年2月16/17日の両日、東京・渋谷のFORM 8にてWindows OSにより実施、2月23・24日の両日は、東京・新宿のアップルコンピュータ トレーニングルームにてMac OSにより実施、最後は3月1・2日の両日、大阪タイリビル会場にて、Windows及びMacのOSにより実施いたしました。

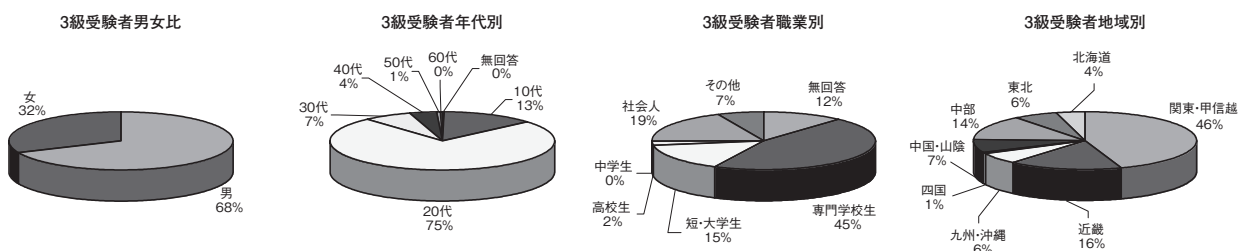


全国協力校・協力団体 試験会場

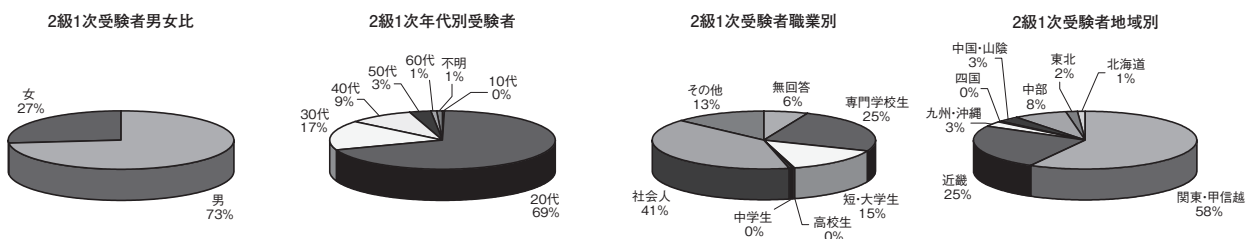
MIDI検定2級1次（筆記）及び3級試験の実施については、下記の学校。団体に会場提供等のご協力を頂きました。

アイデックス・ミュージック・アカデミー、音響芸術専門学校、アーツカレッジヨコハマ、代官山音楽院、東京工科大学、東京スクールオブミュージック専門学校、東京スクールオブミュージック専門学校渋谷、日本工学院専門学校、日本工学院八王子専門学校、日本電子専門学校、パン スクール オブ ミュージック、音楽学校 メーザー・ハウス、財団法人ヤマハ音楽振興会 ヤマハ音楽院、専門学校 東京ビジュアルアーツ、横浜デジタルアーツ専門学校、国立音楽院、専門学校横浜ミュージックスクール、神戸山手短期大学、学校法人 大阪創都学園 キャットミュージックカレッジ 専門学校、JEUGIA 京都音楽院、コンピューターミュージッククラブDee、学校法人 コンピュータ総合学園 神戸電子専門学校、学校法人 ビジュアルアーツ専門学校大阪、くらしき作陽大学、愛媛電子ビジネス専門学校、財団法人ヤマハ音楽振興会 ヤマハ音楽院大阪、大垣女子短期大学、専門学校 名古屋ビジュアルアーツ、金沢科学技術専門学校、リュウケイ ミュージック ネット、コンピュータ総合学園HAL、名古屋文理大学、学校法人 日本コンピュータ学園 東北電子専門学校、学校法人英智学園 専門学校日本デザイナー芸術学院仙台校、学校法人国際アート&デザイン専門学校、学校法人 専門学校九州ビジュアルアーツ、福岡スクールオブミュージック専門学校、学校法人原田学園 鹿児島ハイテク専門学校、学校法人札幌音楽芸術学園 札幌サウンドアート専門学校、北海道札幌琴似工業高等学校、広島コンピュータ専門学校、広島工業大学専門学校、島村楽器株式会社全国16拠点

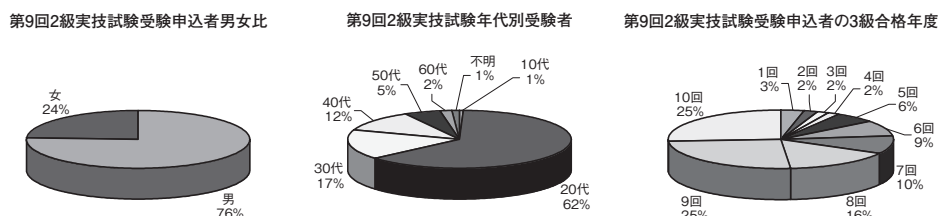
●第10回MIDI検定3級試験（平成19年12月2日実施）受験者分析 受験申込者：1051名（うち学校からの申込526名） 合格者：729名（合格率 69.36%）



●第9回MIDI検定2級1次試験受験者分析 受験申込者：248名 合格者：163名（合格率 65.73%）



●第9回MIDI検定2級2次試験（平成20年2月～3月実施）受験者分析 受験申込者：173名 合格者：135名（合格率 78.03%）



MIDI検定試験受験者推移(国内)

級	内容	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	累計
3級試験	実施日	第1回 H11.1.17	第2回 H12.1.23	第3回 H13.1.28	第4回 H13.12.16	第5回 H14.12.8	第6回 H15.12.7	第7回 H16.12.5	第8回 H17.12.4	第9回 H18.12.3	第10回 H19.12.2	
	受験者数	2,964	2,737	2,145	2,009	1,871	1,965	1,742	1,469	1,275	1,051	19,228
	(内学校)	1,275	1,591	866	1,040	904	968	917	715	659	526	9,461
	合格者数	2,413	1,543	1,536	1,411	1,342	1,460	1,233	1,056	731	729	13,454
	合格率	81.41%	56.38%	71.61%	70.23%	71.73%	74.30%	70.78%	71.89%	57.33%	69.36%	69.97%
2級1次試験	実施日		第1回 H12.5.28	第2回 H13.1.13	第3回 H13.12.16	第4回 H14.12.8	第5回 H15.12.7	第6回 H16.12.5	第7回 H17.12.4	第8回 H18.12.3	第9回 H19.12.2	
	受験者数		979	594	587	391	470	404	429	308	248	4,410
	合格者数		350	240	290	228	292	108	189	187	163	2,047
	合格率		35.75%	40.40%	49.40%	58.31%	62.13%	26.73%	44.06%	60.70%	65.73%	46.42%
	実施日		第1回 H12.7.11	第2回 H13.3.13	第3回 H14.2.9	第4回 H15.2.8	第5回 H16.2.14	第6回 H17.2.11	第7回 H18.2.11	第8回 H19.2.1	第9回 H20.2.16	
2級2次試験	受験者数		328	295	404	391	387	234	211	202	173	2,625
	合格者数		127	64	21	171	37	97	66	74	135	792
	合格率		38.72%	21.69%	5.20%	43.73%	9.56%	41.45%	31.28%	36.63%	78.03%	30.17%
	受験者計	2,964	4,044	3,034	3,000	2,653	2,822	2,380	2,109	1,785	1,472	26,263

中国でのMIDI検定3級推移

	第1回	第2回	第3回	第4回
試験日	2004/12/05	2005/12/04	2006/12/03	2007/12/02
試験会場	北京 蘭州 温州 鄭州 天津 (全国5会場)	北京 天津 瀋陽 杭州 温州 無錫 成都 (全国7会場)	北京 天津 瀋陽 杭州 温州 無錫 成都 青島 (全国8会場)	北京 瀋陽 杭州 無錫 成都 (全国5会場)
受験者数	112名	252名	144名	128名
合格者数	87名	223名	129名	123名
合格率	77.7 %	88.5 %	89.6 %	96.1 %

「ミュージックメディア入門」 (MIDI検定4級対応)改訂新版発行のお知らせ



コンピュータを音楽に活用する手引書、MIDI学習の入門書として専門学校、音楽大学、音楽教室を始め広く一般にご活用いただいていたMIDI検定4級対応ガイドブック「ミュージックメディア入門」を、2008年改訂新版として3月より発売を開始しました。

「コンピュータで音楽を楽しむ。」という従来からのコンセプトは継承しながら、身近な楽しみ方、周辺機器とUSBの接続方法など写真を使用して分かりやすく編集しました。

実写を使用しました具体的な説明は、今回の改訂の大きな特徴となっています。

DAWと呼ばれる現在のオーディオを含む音楽制作の状況に対応していて、MIDI、オーディオの知識については初めての方にも分かりやすく解説をしています。

内容は新たに構成した6つの章の「基本編」と「応用編」「資料編」となっています。

基本編の内容は

- 1章 「メディアと音楽」 コンピュータで広がる音楽の世界、DAW音楽制作
- 2章 「MIDIの知識」 コンピュータとMIDI、MIDIデータの基本
- 3章 「コンピュータの知識」 コンピュータの構成、USB&FireWire
- 4章 「オーディオの知識」 音の基本知識、録音、圧縮オーディオの種類
- 5章 「活用されるMIDI」 マルチメディア、オーディオ、ストリーミング
- 6章 「著作権」 著作権、インターネット上の著作権、著作権隣接権

となっています。
応用編は「楽譜とコードの知識」で、資料編はMIDI、オーディオ、コンピュータ、インターネット、音楽用語等の用語集となっています。

作曲、編曲を専攻する学生から、ボーカル、ギター等を演奏する人達のコンピュータへの入門書としても活用できる構成となっています。

本書の専門学校等への教科書としての採用促進、MIDI検定ホームページへのダイジェスト版掲載や新たな流通対応等により、MIDIの普及啓蒙、MIDI検定の受験者増に結びつけていけるよう考えています。

会員名簿

50音順 2008年4月28日現在

あ

アイデックス音楽総研株式会社

アップルジャパン株式会社

い

株式会社インターネット

インフォコム株式会社

え

株式会社エクシング

NECエレクトロニクス株式会社

NTTコミュニケーションズ株式会社

株式会社エムティーアイ

株式会社エンターブレイン

お

沖電気工業株式会社

株式会社音響総合研究所

か

カシオ計算機株式会社

株式会社河合楽器製作所

き

ギガネットワークス株式会社

株式会社キューブ

く

株式会社グリオ

クリプトン・フューチャー・メディア株式会社

クリムゾンテクノロジー株式会社

こ

株式会社コピーライツ ビジョン

株式会社コルグ

さ

株式会社サイバード

株式会社サミーネットワークス

し

株式会社シーミュージック

JVCエンタテインメント株式会社

島村楽器株式会社

学校法人尚美学園

す

株式会社ズーム

株式会社鈴木楽器製作所

せ

セイコーインスツル株式会社

株式会社セガ

そ

ソフトバンクモバイル株式会社

た

株式会社第一興商

株式会社タイトー

株式会社ダイマジック

株式会社タムラ製作所

て

ティアック株式会社

株式会社ディーアンドエムホールディングス

プロフェッショナル・ビジネス・カンパニー

と

東映ビデオ株式会社

有限会社トゥロッッシュ

株式会社ドワンゴ

に

ニフティ株式会社

学校法人片柳学園 日本工学院専門学校・

日本工学院八王子専門学校

日本シンセサイザープログラマー協会

学校法人電子学園 日本電子専門学校

は

株式会社ハドソン

パナソニック モバイル コミュニケーションズ株式会社

ひ

株式会社BMB

ふ

株式会社フェイス

株式会社フォーサイド・ドット・コム

フォスター電機株式会社 フォステクスカンパニー

株式会社フットレック

へ

ベスタクス株式会社

み

株式会社ミュージックネットワーク

ミュージックノート株式会社

や

ヤマハ株式会社

財団法人ヤマハ音楽振興会

ヤマハミュージックトレーディング株式会社

株式会社ヤマハミュージックメディア

ら

株式会社ラグナヒルズ

り

株式会社リットーミュージック

株式会社リムショット

ろ

ローランド株式会社

〈正会員会社62社〉

*賛助会員

中音公司（中華人民共和国）

株式会社博秀工芸

株式会社ミュージックトレード社

〈賛助会員会社3社〉

社団法人音楽電子事業協会

第12回通常総会と懇親会開催のお知らせ

日 時：平成20年5月15日（木）午後4時～

場 所：ホテルメトロポリタンエドモント 2階「万里」

◇平成19年度 事業報告 収支決算報告

◇役員改選選任の件

◇平成20年度 事業計画（案） 収支予算（案） 審議 他

懇親会：ホテルメトロポリタンエドモント 3階「春琴」 午後6時～
（多数の会員の皆様のご参加をおまちしております）

AMEI NEWS Vol.35 / 2008.4.28

社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発 行：社団法人音楽電子事業協会 事務局

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-16-9 イトービル4F

TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549

発行人：岩崎修三

編集人：高橋直樹（広報委員会）

編集協力：株式会社 博秀工芸

ホームページアドレス：<http://www.amei.or.jp/>